



福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY

学報

三蔵五訓

真理を探究し、道理を実践する。
豊かな品性を養い、不屈の魂を育てる。
生命を尊重し、自然を畏敬する。
個性を伸展し、紐帯性を培う。
未来を志向し、可能性に挑む。

2013.2.1 Vol. 134



2012年
三蔵祭



ACCREDITED
2007.4～2014.3

三蔵祭	1
工学部新棟建設	3
薬学部創立30周年記念式	4
拡がる教育	5
地域連携活動	6
研究の今	9
インフォメーション	10
国際交流瓦版	11
留学等体験記	12
全国大会等出場	13
学友会短信	14
文部科学省補助金事業に採択	15
後援会情報	15

第38回 三蔵祭

三蔵祭を終えて



今年で38回目を迎えた三蔵祭は「One~ 1つに~」というテーマを掲げ、三蔵祭運営委員会一同は皆様に楽しんでいただけけるよう全力を尽くしました。

特に今年の大学祭はこの第38回三蔵祭に携わって下さる皆様、そしてご来場していただく方々と様々な思いを1つにし、楽しんでもらいたいという三蔵祭にしたいと考え、活動してきました。各学部・学科による展示、多数のサークルや研究室による模擬店、様々なイベントなど多くの方々のご協力のもと、皆様と1つになれた素晴らしい三蔵祭になったと思います。

今年は例年なく晴天で、日差しがきつくとも暑い三蔵祭となりましたが、学内外の多くの方々に来場していただきました。皆で一致団結し日々1日、1日を三蔵祭運営委員会の皆さんで取り組みました。ご来場してくださった皆様の楽しそうな様子を拝見することができ、三蔵祭運営委員会一同も最高の第38回三蔵祭になったことをとても喜ばしく思っております。

三蔵祭全体を通して皆で1つの目標へと団結し、成し遂げていくという素晴らしさを改めて再確認することができました。学内外のご協力してくださった皆様、この三蔵祭に携わってくださった皆様、そしてご来場いただいた方々に心よりお礼申し上げます。

第38回三蔵祭運営委員会 委員長 工学部 情報工学科 3年 原田 洋輔
第38回三蔵祭運営委員会 副委員長 生命工学部 生物工学科 3年 天田 沙織

経済学部 松木安太郎講演会「福山,来りて,スポーツを語る!」



経済学部は、三蔵祭において、松木安太郎さんをお招きして「福山,来りて,スポーツを語る!」講演会(10月20日)と、ロンドンオリンピックの経済動向としてパネル展示を実施しました。展示会場では、ホームカミングデー受付を設け、ご来場いただいたOB・OGの方々に福山大学特製ボールペンをプレゼントさせていただきました。今回の三蔵祭では、松木安太郎さんの講演会実施のため、事前に会場の予約から機材の準備などを相原ゼミのメンバーと一緒に携わりました。福山大学に3年以上在籍しているのに、会場の予約や機材の貸出許可をどこで取ればいいのかわからず右往左往する毎日でした。そのような中で当日の実施運営マニュアルを作成し、司会、演出、照明、機材操作、会場誘導などに役割分担し、当日を迎えることになりました。松木さんのピンスポットが本番直前まで機能せず、やっとのこと間に合った時は本当に肝を冷やす思いでした。講演会のあった午前中にイベントの成功を祈願してゼミ生全員で餅つき大会に参加し景気づけをしたのが良かったのかもしれません。最後は、松木安太郎さんと一緒に記念写真が撮れたのがいい思い出です。

経済学科 4年 松岡 剛志

人間文化学部 心理学科 「サイコロジーってサイコー!!ヨーヨーだYO!!」で心理学を体験!?



心理学科では「サイコロジーってサイコー!!ヨーヨーだYO!!」というテーマでイベントを企画しました。色々な色のあるヨーヨーを1つ釣って、釣ったヨーヨーの色により性格を占うといった“ヨーヨー釣り&性格占い”や、輪を投げた距離からその人の心理が分かる“輪投げ”など、楽しいイベントを企画し、心理学科のゼミでの普段の研究成果をパネルで展示もしました。

今回のイベントでは、私たち2年生で企画から運営、また三蔵祭のステージでの宣伝も積極的に行い、多くの方に楽しんでもらえるように試行錯誤しながら活動しました。イベントで使用した道具は、ほとんどが手作りで、2年生全員で時間をかけて作りました。ヨーヨー釣りと輪投げという子どもでも大人でも楽しめる企画なので親子揃って楽しんでもらえました。性格占いの結果を見て「当たっているー」「お前こんな性格だろー」「絶対ちがうー」など、友達や親子の討論が色々な場所で繰り広げられており、自分の性格は分かっているようで分かっていないということを改めて感じました。2年生全員でそれぞれの役割を果たし、スムーズに企画を進めることができました。

今回の企画で、多くの方の笑顔を見ることができて、心理学科2年生一同大変うれしく思っています。心理学について少しでも一般の方に触れて頂くいい機会になって、素晴らしい企画だったと感じました。

心理学科 2年 東野 昇平

工学部 仲間との絆



私たちがいる機械システム工学科は機械システム・コースと自動車システム・コースの2つのコースがありますが、コースが別々でも仲良く勉学に励んでいます。

しかし、3年次になると科目がより専門的になり、教室もコース別々になることが増えてきました。

そこで、「みんなで協力して何かしたいね!」という声のもと、大学祭での模擬店に挑戦することにしました。何を販売するか迷いましたが、アンケートで一番好評だったフライドポテトに決定しましたが、何しろ全員初めての経験で戸惑うことが多かったけど、なんとか材料を仕入れたり道具の手配をしたりして大学祭に間に合うことができました。

大学祭当日も、意外にも好評で、半日で売り切れそうになったため、急いで材料を買い足すことになったり、道具が小規模用のものだったため、調理が全く追いつかなかったりと難しさを痛感しましたが、お客様に「ポテトおいしかったです。」と、言われたときは本当にうれしく、接客の楽しさ、難しさ、喜びをみんなと一緒に体験でき、かけがえのない思い出となりました。

後の反省会では、ポテトの試食や食べやすくする工夫をすれば良かった等、改善点がいくつか見つかりました。この経験を活かして来年はもっとお客様に喜んでもらえる良い店を出そうと思います。

機械システム工学科 3年 加部 勇真, 加藤 勇司, 藤村 悟, 北辰 大希

生命工学部 NEW生命栄養科学科 ~私が歩んだ120日~



今年の三蔵祭は「自身の体や食についてもっと知ってもらおう」をテーマに、これまでと違ったNEW生命栄養科学科を目指しました。そこで大きく変えたのはスタンプラリー制の導入です。体組成測定や研究室発表、学生による模擬講義、フードモデルを使った栄養バランスのチェック、栄養クイズなどの各コーナーを体験してくださった方々に、毎年恒例の手作りスープやクッキーをお渡しました。学生の異学年間の連絡が不十分であったり、説明不足のために来場者の方に混乱を与えてしまったりと、運営の難しさを学ぶ良い機会となりました。来場者の方には「学生さんが丁寧に説明してくれた」、「美味しいかった」、「食生活について見直してみようと思った」などといった嬉しいお声をいただきました。

生命栄養科学科はまだまだ進化途中です。来年、再来年の三蔵祭はさらに楽しいものになると思いますので、今後とも是非ご期待ください!

生命栄養科学科 4年 萩原 暁

薬学部 化学班・薬局班・運営班



薬学部では、化学班、薬局班、薬学部運営班の3つの班で10号館にて催しを行いました。また音楽班は金曜日にサブステージで活動を行いました。各班共に異なる内容を展開しており、来場していただいた方に楽しんでいただけたのではないかと思います。

化学班では「作って!遊んで!食べて!化学を楽しもう!」をテーマに、スライム作りや、アミノ酸と反応して色が変化するニンヒドリン反応を使って指紋を見たり、空気砲を体験してもらったりと、様々な身近で使える化学実験を体験してもらいました。

薬局班ではモデル薬局を利用し、毎年好評を頂いている恒例のハンドクリームや入浴剤の調製体験や、ハンドクリームや入浴剤、肩こりに効果のあるカタコリーナの配布をしました。

薬学部運営班は、恒例となっている「体力測定」「ウゲイスパウダーの体験」「紫雲膏の調製」に加え、「プラセボ効果」について調べて発表しました。準備期間は大変でしたが三蔵祭という大きな行事を終え、人ととの絆の大切さを学ぶことができ、いい経験になりました。最後に忙しい中手伝ってもらった先輩や、班に入っていない学生など多くの方々の手助けがあったからこそ無事に三蔵祭を終えることができました。本当にありがとうございました。

薬学部2年生 久保 沙織

工学部新棟建設



工学部新棟完成予想図(平成25年9月中旬竣工予定。延べ床面積は約7900m²)

工学部では、「今までの与える教育から、学生諸君の資質や能力に応じた主体的な学びへの転換」を進めています。この主体的な学び、つまり「アクティブラーニング」を工学部では初年次から採り入れています。すなわち問題解決型学習法(Project/Problem Based Learning)を採用し、「みらい工学教育プロジェクト」という名称で、平成24年度より実践しています。このプロジェクトに入って、学生諸君が自律的に学ぶ習慣を身につけてほしいと願っています。もう一つ、プロジェクトがあります。「ひと・まち・くらしプロジェクト」という名称で、地域の活性化や地域貢献に取り組むプロジェクトです。学生諸君が社会のニーズを知り、それに対する専門知識の応用のしかたと、社会に貢献する態度を学びます。このプロジェクトを通して地域と繋がり、社会人基礎力を身につけてほしいと考えています。

これらのプロジェクトと並行して、各学科の独立専門教育プログラムを推進しています。これは、各学科の専門教育を象徴的に示したもので、工学部が自信をもって提供する工学教育プログラムです。

以上のような工学部の新しい取り組みを実践するのにふさわしい場として、工学部新棟の建設を進めています。延べ床面積は約7900m²で、平成25年9月中旬完成の予定です。コンセプトは「見通しのよい空間」です。建物内部では壁による“しきり”ができるだけ少なくして、学生諸君と教員とが一体感を感じながら共に学べるような空間になっています。この新しい校舎で、将来必ず役に立つ、“さまざまな力”を養ってください。また、友人との語らいの場として、地域の人々との交流の場として、大いに活用してください。

工学部長 鶴崎 展



新棟1階:研究・実験室、みらい工学教育プロジェクトエリアのイメージ



新しい研究・実験室のイメージ

薬学部創立30周年記念式

福山大学薬学部は1982年に“臨床薬剤師の養成”を目的として創立されました。2012年の今年は創立30周年にあたります。そこで、8月5日(日)清水厚實理事長、松田文子学長、福山市内の高等学校の校長先生をはじめとする多くの来賓の方々と卒業生参列のもとに、福山大学薬学部創立30周年記念式を挙行しました。

まず午前の部では、「6年制薬学教育と今後の薬剤師の在り方」をテーマに記念講演会が学校法人福山大学宮地茂記念館で開催されました。



写真1 松田文子学長の挨拶



写真2 吉富博則薬学部長の挨拶



写真3 記念式の様子

講演会では、前福山大学薬学部教授で現在は日本薬学会の副会頭を務めておられる名古屋大学大学院創薬科学研究科の赤池昭紀教授が、「6年制薬学教育は何を目指しているか～これまでの経緯と今後の展望～」という演題で、薬学教育課程を6年間に延長した目的ならびに目指している薬剤師教育について講演されました。続いて、福山大学の吉富博則薬学部長が、昭和57年の開設時から学内にモデル薬局を有し、必修の実務実習も実施するなど、今日の6年制薬学の先駆けとなる医療薬学を指向し、先駆的なカリキュラムを実施している福山大学における教育を「福山大学薬学部6年制教育の特長とその成果」というタイトルで講演されました。そして最後は、福山大学薬学部の第2期卒業生で岡山赤十字病院薬剤部長の森英樹先生が「近年の薬剤師業務の変遷と6年制薬学への期待」という演題で、臨床現場における薬剤師業務と薬学教育の関連性について講演されました。講演会は約2時間でしたが、参加した方々は最後まで講演に熱心に耳を傾けておられました。



写真4 赤池昭紀 名古屋大学大学院教授
(元福山大学薬学部教授)の講演



写真5 森英樹 岡山赤十字病院薬剤部長
(薬学部第2期卒業生)の講演



写真6 記念講演に熱心に聞き入る参加者の方々

午後は、創立30周年記念祝賀会を福山ニューキャッスルホテルで開催しました。緊張感のある午前中の記念講演会とは打って変わって和気あいあいとした楽しいパーティーとなりました。久しぶりに再開した卒業生や教員の間で話題が尽きず、あっという間の2時間でした。最後は、福山大学薬学部の益々の発展と、4,000名におよぶ薬学部卒業生の今後の活躍を祈念してお開きとなりました。



写真7 清水厚實理事長の挨拶



写真8 祝賀会の様子



写真9 管弦楽団の演奏

薬学科 教授 田村 豊

第11回ロボットコンテスト－工学部－

今年でロボットコンテストは11回目となります。今年のコンテストの競技は、ピンポン玉を所定の位置まで運んだ数を競うものです。制作するロボットはリモコン型のロボットです。本年度も中学校や高等学校などから6チームの参加がありました。どのチームも自由に転がるピンポン玉をつかむことに苦労していました。優勝は多くのピンポン玉をいっぺんに運搬することができる英数学館中学校科学部のレジスタンスでした。参加者は早くも次年度への構想を考えているようでした。



第11回ロボットコンテスト

機械システム工学科 講師 小林 正明

第7回高校生CMコンテスト2012



「映像作品の部」は、兵庫県立太子高等学校の橋本瑛理奈さん、大西藍さん、長谷川レナさんによる「太子ドックと太子高生」(太子町)。「企画コンテの部」は、大阪市立東高等学校の坂本侑さんによる「笑いの絶えないまち『大阪』」(大阪)。「広告コピーの部」は、広島県立高陽東高等学校の小早川萌さんによる「5人戦隊 HERO島!!」(広島県)でした。

10月21日、福山大学で表彰式をおこないました。受賞作品の詳細はウェブサイトをご覧下さい。

<http://www.fukuyama-media.jp/cm/>

メディア情報文化学科では、恒例の「高校生CMコンテスト」を開催しました。今年は、「映像作品の部」に104作品、「企画コンテの部」に120作品、「広告コピーの部」に232作品と過去最高の応募が集まりました。

(株)OHKエンタープライズの山崎誠氏と(株)サン・アド顧問でCMプロデューサーの藤森益弘客員教授を審査員に迎え、厳正な審査の結果、各部門グランプリが選ばれました。

「映像作品の部」は、兵庫県立太子高等学校の橋本瑛理奈さん、大西藍さん、長谷川レナさんによる「太子ドックと太子高生」(太子町)。「企画コンテの部」は、大阪市立東高等学校の坂本侑さんによる「笑いの絶えないまち『大阪』」(大阪)。「広告コピーの部」は、広島県立高陽東高等学校の小早川萌さんによる「5人戦隊 HERO島!!」(広島県)でした。

メディア情報文化学科 講師 杉本 達應

スピーチコンテスト



2012年度広島県高校生英語スピーチコンテストは、平成24年10月20日(土), カリフォルニア大学リバーサイド校をはじめ、関係各団体の協賛と後援を仰ぎ、福山大学1号館大講義室にて開催されました。今回から広島県全域の高校生が対象となり、県内12校より19名の高校生が参加し日頃の研鑽の成果を競い合いました。大賞には県立尾道東高等学校の瀬戸本将希君、準大賞には銀河学院高等学校の壬生川奏美さん、優秀賞には県立上下高等学校の孫亦斐さん、審査委員特別賞には福山暁の星女子高等学校の青木萌夏さんが選ばれました。

翌21日(日)には、恒例の三蔵祭スピーチコンテストが開催されました。日本語の部では、

人間文化学部の鄭 亞楠さん(最優秀賞)、経済学部の劉 韻さん(優秀賞)、金 月珩さん(奨励賞)、英語の部では、経済学部の金 月珩さん(最優秀賞)、劉 韵さん(優秀賞)、周 洪宇さん(奨励賞)がそれぞれ表彰を受けました。

最後に開催にあたりましてご尽力ならびにご援助を賜りました皆様に感謝を申し上げます。

国際センター 国際交流部長 田中 哲郎

地域連携活動

企業とのコラボで“おむすび”

今年4月より企画が開始された、生命工学部生命栄養科学科と大塚食品、コンビニポプラとの商品開発についてご紹介します。「西日本栄養学生レシピコンテスト」として、くらしき作陽大学、比治山大学、中村学園大学と本学の4大学で実施されました。大塚食品の「マンナンヒカリ(コンニャク米粒)」を使用したおむすびを学生が考え、最終的にコンビニポプラから各大学代表の4種類のおむすびが10月初旬に新発売となりました。

生命栄養科学科学生の個性的なレシピが十数件寄せられ、厳正な審査の結果、4年生女子学生作の“なすの肉味噌おむすび”に決定しました。書類審査から調理と商品のプレゼンも含めた実技審査を経て決まりましたが、食品企業の方々は学生のプレゼンに対し真剣な眼差しで沢山の質問をされていました。中四国のポプラ460店余りで販売されていましたので、お店で見かけた方も多いのでは? 12月にはポプラ岡山工場の見学も行い、衛生管理の徹底や食品製造の実際を直接学べる機会も得ました。



生命栄養科学科 準教授 石井 香代子

山崎製パンと学生のコラボパン2ヶ月で6万2千個販売達成

福山大学の产学連携活動の一環として、福山大生命栄養科学科の学生が、山崎製パンと協力して企画開発したオリジナルのパン「檸檬(れもん)と白餡(しろあん)のパイ」が、10月27日(土)、28日(日)の広島フードフェスティバル(広島城公園)で先行販売され、引き続き10月29日から12月末まで山崎パンの取扱店で販売されました。このパイの販売個数は、6万2千個になりました。

そもそもこの企画では、4つの大学(福山大学、広島女学院大、文教女子大、山陽女子短大)が並行してそれぞれコラボパンを開発しました。昨年3月山崎製パンの方に備後地域の大学の食品・栄養系学科の代表としてご指名いただきましたので、9名の希望学生を募って、6月、他の参加校と共に山崎製パン広島工場見学をしました。そのとき、この企画を共催するイマなま3チャネルのパーソナリティ西田篤さんが「広島を元気にする」というテーマを掲げて、学生をやる気にしてくれました。

その後、学生を主体とするアイデア会議を繰り返し、学生がテレビ生出演(6月28日)してアイデアを披露しながら、山崎製パンの担当者の方と試作と検討を繰り返し、おいしさ、斬新さだけでなく、製造ラインでも可能で、原料の供給が十分で、値段が手ごろな今回のパンが出来ました。パッケージも皆のアイデアが込められました。広島、備後地方、福山の特徴を生かして、レモンジャムの甘酸っぱさと白餡(しろあん)の上品な甘さ、滑らかさが調和したちょっと和風のパイです。

本学コンビニでも販売されていましたが、昼から行ったらいつも売り切れでした。生命栄養科学科では、記念品にも使いました。ちょっとトーストしたホットパイにアイスクリームを添えると、絶品スイーツです。

この企画は、担当した学生にとっては、食品製造の企画開発から販売に到るプロセスに携われた貴重な体験でした。テレビ局のスタジオが場所を展開しながら如何に広い場所のように使っているかも興味深いものでした。広島を元気にしようという企画でしたが、学生も教員も大学も元気を頂いた気がします。

この企画を提供いただいた山崎製パン(株)には、感謝します。



10月25日 「イマなま」で製品紹介



生命栄養科学科 教授 山本 英二

「第9回健康福山21 ヘルシーメニューコンテスト」入賞

生命栄養科学科では、管理栄養士の卵として3年時に保健所や市役所などで臨地公衆栄養学実習を行っています。これは、現場での行政栄養士の仕事内容を実際に学ぶことのできる大変貴重な機会です。実習先3施設18名うち、福山市保健所では10名の学生を受け入れていただきました。今回、福山市保健所から指定された研究課題のひとつが、「第9回健康福山21ヘルシーメニューコンテスト～元気いっぱい！楽々メニューで朝ごはん～に作品を応募すること」でした。

ヘルシーメニューコンテストは、今年で第9回目を迎え、福山市を代表する料理コンテストです。朝食メニューの応募作品から①朝ごはんのメニューであること、②主食、主菜、副菜が揃いバランスがよいこと、③地元の食材を使っていること、④30分以内で作れることの4つの条件に照らし合わせ、1次審査(書類審査)を経て、2次審査(試食、栄養価計算)により、小学校・中学校・一般と年代別に評価が行われます。

「ヘルシーメニューコンテスト」作品応募にあたり一緒に対策を練りました。生命栄養科学科でも平成23年度から「高校生アイデアどんぶり選手権」を実施しております。毎年多くの応募作品を審査している経験を生かし、学生に秘策をアドバイスしました。(内容？秘密です！)

その甲斐あって、1180作品の応募の中から、生命栄養科学科3年永井尊子さんが、見事入賞(10作品)され、「小松菜ジュースがグッドで賞」を受賞しました。★メニューは、ロールサンドウィッチ、温泉卵入りサラダ、キウイフルーツ、小松菜ジュースです。☆セールスポイント☆野菜をいっぱい食べることができます。サンドwichの耳がもったいないので、サラダのクルトンにして食感をプラスしています。

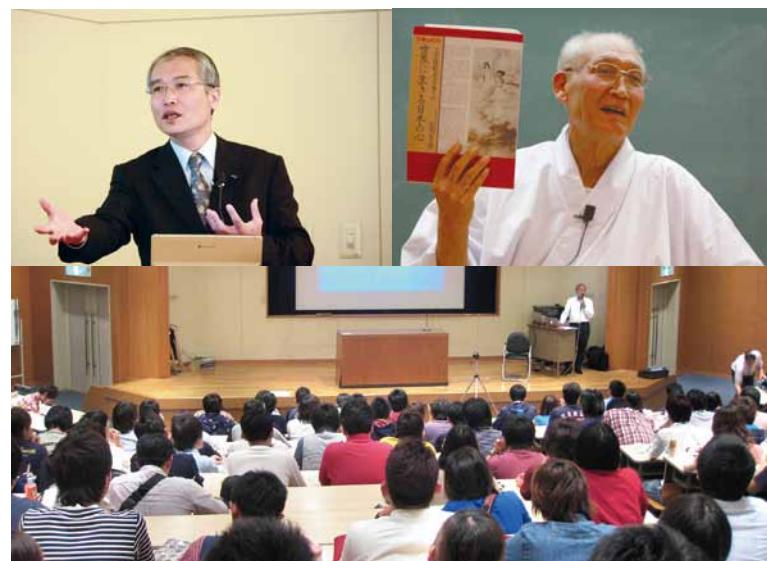
2012年10月20日(土)「健康福山21フェスティバル2012」表彰式にて表彰され、10月20(土)、21日(日)の2日間にわたり、ヘルシーメニューコンテストコーナーで作品が展示されました。この模様は、福山市のホームページ<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/life/detail.php?hdnKey=11087>で公開されています。また、惜しくも入賞には至りませんでしたが、1次審査【1180作品中30作品通過】を金本大地くんも通過しました。力作揃いの応募メニューの中から、高倍率を勝ち抜いて1次審査通過・入賞された実力は、毎日の大学生活で培われたものと思われ、頼もしい限りです。

今後の活躍を期待しています。また、来年度も、後輩たちが「ヘルシーメニューコンテスト」での福山大学の健闘を継承していただけることを願っています。

生命栄養科学科 教授 木村 安美



備後経済論



備後地方の製造業には、多くのオノリーワン・ナンバーワン企業があります。しかも中小企業から大企業までさまざまな規模、業種で構成され一大集積地となっています。

経済学部では、地域とのかかわりを一層深めることから、毎年後期の授業で「備後経済論」を開講しています。講義は、地元企業の経営者を講師に招き、経営理念や企業の立ち上げ話、若い世代へのメッセージなどを語っていただき、毎回約300人の学生たちが受講する人気の授業となっています。

講義では、経営者等の自らの体験を通して、時代の先を読む、多くの失敗から学ぶ、大きな目標を立てる、真の友人をつくるなど、一般の授業では学ぶことのできない貴重な生の声を聞くことができます。このため学生たちには、地元の経済に理解を深めるだけでなく、将来の生き方にも大変役立つ授業となっています。

今年度の講師は、株式会社旭光製作所、万田発酵株式会社をはじめ製造業、卸・小売業、サービス業者から宮司まで多彩な経営者を招いて実施しています。「備後経済論」は、今年度で9回目となりましたが、社会人の方が毎回20～30人聴講(無料)され、地域にすっかり定着した授業となっています。また9月には「平成23年度備後経済論講義録」を刊行しました。お願いした経営者をはじめ、近隣の高等学校や市立図書館などへ配布して、高校生の進路指導や関心ある人たちに大変喜ばれています。

経済学部 准教授 小林 正和

2012年度福山大学公開講座終了

福山大学と三原市中央公民館中講堂の2会場で、9月から11月にかけて「備後そして瀬戸内海、私たちの暮らす風土」という統一テーマで実施しました。私たちの住んでいる地域の歴史、産業、生活、文化やそれを生み出した自然や人などのお話をしました。各回のテーマ、講師は次の通りです。

回	福山	三原	講座名	講 師
1	9/29	9/26	瀬戸内海の水産資源と福山大学内海生物資源研究所が果たす役割	生命工学部 南 卓志 教授
2	10/6	10/3	「備後経済論」から学ぶ	経済学部 平田宏二 教授
3	10/13	10/10	地名で探る瀬戸内の歴史—尾道・福山・鞆の浦—	人間文化学部 引野亨輔 准教授
4	10/27	10/17	生活習慣病の予防と治療—備後の地域医療に漢方を活かす—	薬学部 岡村信幸 教授
5	11/10	10/24	本島アートプロジェクト	工学部 水上 優 准教授



閉講式において、5回中4回以上の出席者に、修了証書を授与しました。会場ごとの申込者数、受講者数、修了者数は次の通りです。今年度は地域に密着したテーマ・内容であったためか、両会場合計(()内は前年比)の出席者数285人(+45)、延べ出席者数904人(+123)、受講者数260人(+37人)、修了者数146人(+15)となりました。

社会連携センター

知財・地域連携部長 井上 矩之

じばさんフェア2012に福山大学が11小間出展

福山大学と福山平成大学の後援している恒例の「じばさんフェア2012」(主催:備後地域地場産業振興センター)が、10月27日(土)、28(日)の2日間に渡って催されました。備後地域の企業展示、研究機関の展示、地場産品や飲食の販売などが行われました。今年は、会場を、例年行われていた広島県立ふくやま産業交流館(ビッグローズ)から、福山市中心部緑町のローズアリーナと屋外プロムナードに移しました。2日間で11,000名の来場者がありました。飲食販売の場所と展示の場所は、建物の外と内で距離が離れていたためか、展示来場者はなんと少なかったような気がします。

オープニングでは、富士副学長がテープカットに参加しました。福山大学は11小間で大学の教育研究内容をよく理解していただこうと、平均して常時、教員30名、学生15名が来客に対応しました。いつも来客が一杯の展示がありました。常連の方も多いようです。

生命栄養科学科 教授 山本 英二



骨密度測定と栄養指導に行列



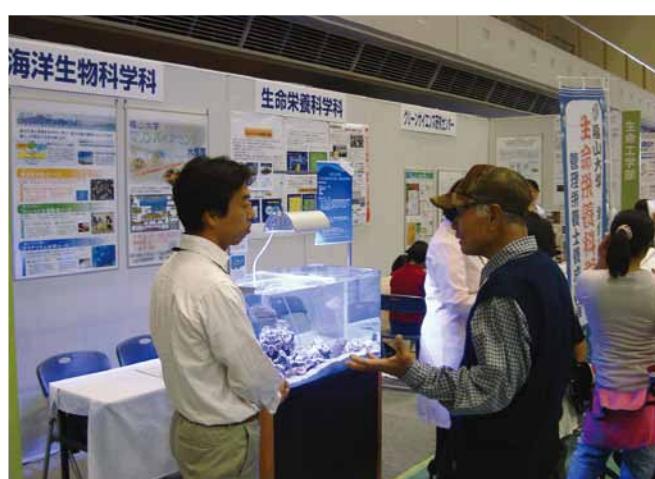
工学部新棟の模型と工作教室



手をかざすだけのロボット操作



血糖値とお薬相談に笑顔



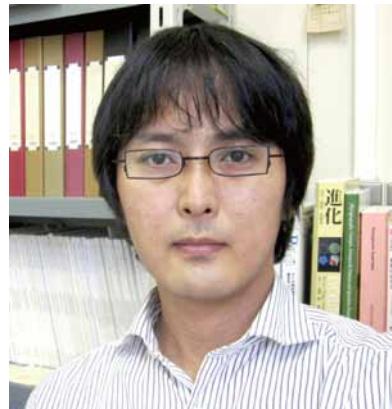
移動式水族館のムーディな水槽



大学のロゴマークと航空写真

佐藤淳講師 日本哺乳類学会 奨励賞受賞

9月22日、生物工学科の佐藤淳講師が日本哺乳類学会奨励賞を受賞しました。本学会は、哺乳類学研究者の学会として1923年に創設された大変歴史のある学会です。佐藤講師は哺乳類学の発展に寄与する優れた研究活動を展開し、今後の活躍が期待



される若手の旗頭的存在として高い評価を受けて、奨励賞を受賞しました。佐藤講師は2003年からの10年間に26編もの論文を発表するなどアクティブな研究活動を行っています。受賞タイトルは「食肉目及び齧歯目哺乳類を対象とした進化遺伝学的研究」で、特に遺伝情報を用いてイタチ類やレッサーパンダ等の進化的類縁関係を解明した研究は、国際的に高く評価されています。一方、島に隔離された哺乳類の集団について、遺伝的多様性に基づく絶滅リスクの評価に関する研究を行っており、生物多様性保全という近年の重要課題と結びつけて研究を展開している点も高く評価されました。近年、佐藤講師は日本固有種であるアカネズミ集団を研究対象に、瀬戸内海島嶼という近隣地域の特長を生かし、動物の進化と絶滅のメカニズム解明を目指して研究を進めています。この地域に根差しつつ世界的にも価値ある成果が期待される佐藤講師の研究の進展に、今後とも注目して頂きたいと思います。

生物工学科 教授 山口 泰典

渕上倫子教授 日本調理科学会 学会賞受賞

昨年の8月24日(金)から2日間にわたり、秋田大学で開催された日本調理科学会平成24年度大会において、生命工学部生命栄養科学科の渕上倫子教授が学会賞を受賞されました。この賞は学会における非常に功績の大きい方に授与される名誉ある賞であり、調理科学の進展に寄与されたことが高く評価されました。受賞テーマは、「調理・加工による食品物性の挙動と組織に関する総合的な研究」です。渕上教授は、岡山県立短期大学、岡山県立大学保健福祉学部栄養学科教授を歴任され、一貫して調理科学分野で40年以上研究者として多大な業績を残されました。

先生の研究テーマをご紹介しますと、野菜のペクチン質に関する調理科学的研究、食品の調理・加工への高圧力利用に関する研究など、クライオ-走査電子顕微鏡を用いた組織観察やクリープメータでの物性測定等を実施し、調理操作における食品の変化を様々な視点から研究され、論文・著書も多数執筆されています。また食品会社との共同研究にも多くの実績をお持ちです。



生命栄養科学科創設にご尽力され、平成21年着任後は現在まで学科長として精力的に生命栄養科学科の舵取りを担っておられます。大変ご多忙の中でも、後輩教員や学生への細やかなお声かけと熱心なご指導には定評があります。好奇心旺盛なお人柄もまた魅力的な先生でいらっしゃいます。学生たちは、渕上教授を「ペクチン・神(かみ)！」とお呼びして尊敬しております。このような先生と一緒に仕事をできる幸せを噛み締めつつ、これからの一層のご活躍を祈念し、このたびの受賞を心よりお祝い申し上げます。

生命栄養科学科 准教授 石井 香代子

川人潤子助教が小貫英教育賞(心理学分野)を受賞



川人潤子助教が、平成25年2月に、教育学および心理学分野におけるオリジナリティのある学術研究を助成する公益信託小貫英教育学研究助成記念基金平成24年度「小貫英教育賞」(心理学分野)を受賞しました。

受賞した論文は、川人助教の博士論文です。論文の内容は、抑うつを改善するための心理学的プログラムの開発および実証的な効果を検討した成果です。

2月15日(金)には、学長室にて協同出版の小貫社長より、記念品が贈呈されました。

写真は、受賞を記念して、左から小貫社長、川人助教、松田学長、を撮影したものです。

1号館2階の第2食堂がリニューアルOPEN！



1号館2階の第2食堂が、11月15日にリニューアルオープンしました。

以前は定食中心だった第2食堂から、女子学生に人気のあるパスタやドリア・オムライスにピザなどの洋食や、男子学生も満足できそうな日替わり定食・ラーメンセットなど“がっつり系”的メニューも揃っています。

また、従来からあった食事のトレーを持ったままでも入室できる自動ドアつきの女性専用ルーム“コピーヌ(フランス語で「女友達」)”もあり、女子だけのくつろぎのひと時を過ごすこともできます。

大学会館2階にFu's CaféがOPEN！



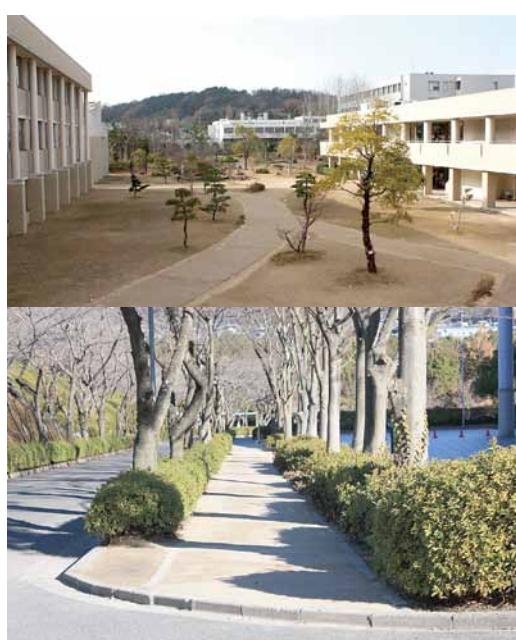
12月3日(月)9:00に、大学会館食堂内の螺旋階段を上がった2階スペースに、新たにカフェ「Fu's Café(フーズカフェ)」がオープンしました。

メニューは、本日のパスタ、ランチプレート・グラタン・ドリア・サンドイッチ・焼きたてパン・ケーキ等で、軽食などの、喫茶を中心取り揃えています。

大学会館食堂の休業期間は、しばらく御不便をおかけいたしましたが、フーズカフェのオープンに伴い大学会館食堂も営業を開始していますので、ぜひご利用ください。

皆様お待ちしております。

学内の環境整備について



1号館の中庭の石畳と大学会館前の通路を、つまずきにくく夜間でも安心して歩けるように改修しました。また、平成24年12月14日から15号館東側～16号館へ下りる急勾配だった階段部分にスロープ歩道の設置工事をしています。完成後は、森を抜ける小道のようなスロープになると思います。

国際交流瓦版

◎(財)ひろしま国際センターの平成24年度奨学生授与式および交流会に、足立浩一国際センター留学生部長と共に倪根静さん(国際経済 4年 中国出身)ら6名の奨学生が出席。 (7月2日)

◎広島県日中親善協会主催の「日中親善に関する発表会及び懇親会」に富士彰夫副学長・国際センター長と共に、宋晨陽さん(国際経済 2年 中国出身)ら3名の留学生と則頭真紀子さん(国際経済 3年)が出席。 (7月5日)

◎米国ニューヨーク州、Albany College of Pharmacy and Health Science(ACPHS)から薬学部5年生1名が、本学薬学部を訪問し、統合型授業参観・医療薬学センターを見学。 (7月12日)

◎本学協定校、カリフォルニア大学リバーサイド校(UCR・米国)へ半年間留学へ行く安部淳一さん(国際経済 2年)と対外経済貿易大学(UIBE・中国)へ半年間留学へ行く則頭真紀子さん(国際経済 3年)が学長室で留学決意表明。



(8月1日)

◎UCRへ塚原一郎義治准教授の引率のもと、5名(福山平成大学生1名含)が、約1ヶ月間の英語研修。引き続き宮地勇貴さん(国際経済 3年)、安部淳一さん(国際経済 2年)は、(独)日本学生支援機構、留学生交流支援制度(短期派遣)の奨学生を得て半年間短期留学。



(8月3日～9月2日)

◎李森教授の引率のもと、福島和人さん(経済 4年)ら2名が、本学協定校、対外経済貿易大学(UIBE・中国)で中国語研修。福島さんは引き続き交換留学生として、平成25年2月上旬まで本学から派遣。 (8月5日～22日)

◎日本企業が求めるビジネス日本語能力等の向上をめざし、留学生活躍支援センター主催「平成24年度実用日本語研修」に、本学から姜力瑛さん(国際経済 3年 中国出身)ら15名の留学生が参加。希望者は研修終了後、ホームステイ・インターンシップを体験。 (8月8・10・13・15・17・20日)

◎広島県留学生活躍支援センター主催「平成24年度留学生のための合同進学説明会」に、尾田温俊国際経済学科長他2名の教員と丁思琦さん(国際経済 3年 中国出身)ら2名の留学生が参加。 (9月5日)

◎張煜彧さん(経済 4年 中国出身)が、福山市立駅家小学校で中国の民話について講義。



(9月12日)

◎平成24年度前期卒業式が挙行され、経済学部国際経済学科1名、工学研究科 情報処理工学専攻1名の留学生が卒業。また、UIBEから派遣された黄一丁さん(経済 中国出身)ら4名の交換留学生が修了。 (9月15日)

◎平成24年度福山大学後期入学留学生歓迎式を開催。中国の協定校、貴州師範大学から曾令竺さんら7名の編入生(経済学部5名、人間文化学部2名 中国出身)、1年間の交換留学生として上海師範大学から、丁叶昇さん(人間文化)、ソフィア大学から、Yotova Maria Yotovaさん(メディア情報文化 ブルガリア出身)が入学。 (9月18日)

◎Yotova Maria Yotovaさん(メディア情報文化 交換留学生 ブルガリア出身)が、福山市立東村小学校でブルガリアの風土・文化について授業。

(10月16日・11月14日)

◎国際センター国際交流部運営委員会主催「2012年度 広島県高校生英語スピーチコンテスト」を開催。今年で10回目となる節目に、応募対象者を広島県東部から広島県全域に拡大。12校19名が参加。大賞受賞者は、広島県立尾道東高等学校2年生、瀬戸本将希さん。演題はNew Challenge。大賞受賞者には、アメリカ協定校UCRから来年夏季コースの授業料等を授与。



◎国際センター留学生部運営委員会、留学生会、孔子学院共催で、第3回中学生交流クイズ大会を開催。留学生2名・日本人学生1名の1組でクイズに挑戦。優勝は、金月珩さん(税務会計 3年 中国出身)、藤藤さん(経済 3年 中国出身)、井上章太さん(税務会計 3年)のチーム。(10月20日)

◎第38回三歳祭で、留学生会が、模擬店を出店し、水餃子・焼き餃子・焼き肉まん・ゴマ団子を販売。



(10月20日～21日)

◎国際センター国際交流部運営委員会主催「第19回日本語・英語スピーチコンテスト」を開催。日本語の部では、鄭亞楠さん(人間文化 2年 中国出身)が「中国と日本の絆～異文化交流の大切さ～」の演題で最優秀賞を受賞。英語の部では、金月珩さん(税務会計 3年 中国出身)がChina Where Are Your Wordsの演題で最優秀賞を受賞。

(10月21日)

◎平成24年度夏季アメリカ集中英語研修留学報告会を開催。引き続き、平成25年度留学募集説明会を実施。約20名の学生及び教職員が参加。



(10月22日)

◎首都師範大学との学術教育協定に伴う学生交流に関する協定実施細則を締結。 (10月23日)

◎「インターナショナル秋祭りスポーツ大会」が福山市立南小学校で開催され、本学から留学生のみならず日本人学生を含め、20名(教員含)が参加。パン食い競争・大縄跳び等を通じ、スポーツ交流。



(10月28日)

◎(公財)熊平奨学文化財団の懇親会に、奨学生の張潤蘇さん(人間文化 4年 中国出身)が、足立浩一国際センター留学生部長と出席。 (10月29日)

◎平成24年度私費外国人留学生学習奨励費給付制度により追加受給者として齊星さん(国際経済 4年 中国出身)ら5名の奨学生が採用決定。

(10月31日)

◎朱潔さん(大学院 経済 1年 中国出身)が神石高原町立三和小学校で、小学生と国際交流。

(11月5日)

◎朴聖雨さん(国際経済 3年 韓国出身)と張煜彧さん(経済 4年 中国出身)が、神石高原町立神石小学校で各出身国の紹介。



(11月6日)

◎国際センター主催、備北丘陵公園・帝釈峠散策ツアーオンに趙建紅講師、尾田温俊国際経済学科長が弓率のもと、26名の学生が参加。日本の紅葉を堪能。



(11月11日)

◎広島県留学生活躍支援センター主催「平成24年度外国人留学生のための就職活動実践セミナー」が宮地茂記念館で行われ、本学から6名の留学生が参加。

(11月17日・24日)

◎福山松永ライオンズクラブ主催「第24回チャリティ茶会」に佐藤好絵さん(税務会計 3年)ら2名の日本人学生とYotova Maria Yotovaさん(メディア情報文化 交換留学生 ブルガリア出身)ら2名の留学生が参加。

(11月18日)

◎(財)ひろしま国際センターの平成24年第2回奨学生交流会に、山代宏道国際センター副センター長と共に6名の奨学生が出席。趙文斌さん(大学院 経済 1年 中国出身)が、奨学生を代表として挨拶。

(11月29日)

(学務部 国際交流課)

夏季集中英語研修を終えて

経済学部国際経済学科 2年 奥平 翔太
(広島県立大門高等学校出身)

僕は2012年8月3日から9月2日までを大学の夏季集中英語研修で、カリフォルニア大学リバーサイド校 (UCR) に行きました。

僕には以前から日本から遠くに離れた国に行き、滞在してその国の生活や文化を知りたいという思いがあり、このプログラムに参加しました。

一ヶ月という短い期間でしたが、リバーサイドは岩だらけの山や大きなヤシの木のような樹木、夏なのに唇が割れるほど乾燥した気候など新鮮で内容の濃い体験を数多くしました。

僕は今回のプログラムで初めてホームステイを体験しました。ホームステイ先では様々な面で助けていただき、大変うれしかったです。逆に迷惑をかけてしまい申し訳ないこともしました。

また英語での会話はなかなか上手くいかず、難しい会話は翻訳サイトを使いながらやらねばなりませんでした。英語の勉強は大学の講義や自分でやっていましたが、実際の会話となると相手の言っている意味がわからず意思疎通に大変苦労しました。それでも本当の家族の一員のように話しかけてくれたり、自由を与えてくれたホストファミリーには感謝しています。

UCRでは、日本で受けた試験を元に編成されたクラス分けに従い、自分の実力に合ったクラスでReadingや発音などを学びます。そのクラスには、日本人は僕だけでなく同じ大学の友人もいましたが、クラス内では英語以外の言語は禁止されており、ここでも語学力のなさを痛感しました。僕がいたクラスは13人ほどで、日本人が僕を含め5人、アラブ人は5人、中国人が3人といった状態で、皆、親切かつフレンドリーでしたが、僕は語学力の低さを理由に日本人の友人や先輩に頼ることが多く、満足に会話ができませんでした。



このプログラムで僕にはたくさんやり残したことがあります。様々な所に行きましたが、まだまだアメリカという国の表層しか一ヶ月では味わえなかったように思います。それに外国人の友人をもっと作って話したかったと思います。語学についても身に付いたとは言えません。

日本でこの体験記を書きながらも、リベンジを考えてる自分がいます。今度は自分の力でアメリカに行ってリベンジを果たしたいと思います。

対外経済貿易大学交換留学奮闘記

経済学部 経済学科 4年 福島 和人
(広島県立福山商業高等学校出身)

私はこの半年間、中国へ留学をしてきました。今まで外国語は英語しか学習したことがない中国語は全くの初心者としての挑戦でした。ではなぜ中国なのか。理由としては第一に、私の友人に留学の経験があり、それをとても楽しそうに話していたことです。第二に私が仲良くしていた中国人の友達が福山大学にこの春まで通っており、日本語だけでなく私も中国語でコミュニケーションを取りたいと思ったためです。

私が留学先として選んだ対外経済貿易大学のキャンパスの雰囲気も勉強が促進した重要な一因と言えます。こちらの学生はとても明るく、積極的に外国人の学生と交流するため勉強に関しては事欠きませんでした。また学内もとても広く、食堂などは学生以外の一般の方も利用できるため、学外の情報も入手することができました。球技大会などイベントも豊富で、毎日何かイベントを行っている印象を受けました。

中国で生活を始める上で最初に苦労したのは、相手が話す内容が全くわからないことです。耳で聞き取れるようになるまで少なくとも一ヶ月は必要だと言われています。聞き取れるようになるまで本当に大変でした。こればかりは毎日勉強をしていたからすぐ聞き取れるものではなく、我慢も必要だからです。同時に自分の主張を伝えるのも苦労しました。私が会話できるようになったのもつい最近のことです。

現在のように一般会話を問題なくできるようになるまで、私は毎日毎日、欠かすことなく勉強をし続けたおかげだと思います。中国人の友達を作り、毎日会話の練習をしてもらい少しづつ単語を増やし・・その繰り返しです。しかし、練習を継続することで自分がしゃべる言葉が相手に伝わる喜びはこの上ありません。



私はこの留学は本当に自分にとって今後、自分にとってかけがえのないものになったと思います。この大学で仲良くなった中国人の学生だけでなく、他の外国人とも交流し続けたいと思います。こちらでの留学期間は残り僅かなものとなります、一日一日を大事にして後悔のないように過ごしたいと思います。

第92回天皇杯全日本サッカー選手権に出場 3年ぶり5度目の出場も 延長の末初戦突破ならず



本学学友会サッカー部は平成24年9月2日（日）に呉市総合スポーツセンターで開催された天皇杯全日本サッカー選手権に出場しました。対戦相手は愛媛県代表のFC今治。四国社会人リーグを制した強豪です。晴天に恵まれた試合当日はお互いに持ち味を出し合う一進一退の攻防で推移。0-0のまま延長戦に突入。キャプテンのゴールで意地を見せたものの延長戦の結果1-2で敗れ、残念ながら初戦突破はなりませんでした。ただ選手達は精一杯清々しく戦ってくれたと思います。

当日は多くの大学関係者の皆様にご声援いただき心から感謝いたします。なお2回戦ではFC今治はサンフレッチェ広島に勝利しています。

サッカー部監督
経済学科 准教授 吉田 卓史

平成24年度中国六大学野球秋季リーグ戦で完全優勝!



平成24年9月1日から10月15日までの期間に行われた、平成24年度中国六大学野球秋季リーグ戦において、硬式野球部は10勝2敗、すべての対戦相手から勝ち点をあげ、完全優勝しました。個人タイトルは最高殊勲選手賞：山本翔大郎（経済2年）、首位打者賞：木村真登（経済2年）、ベストナインも一塁手：成廣築（経済4年）、二塁手：木村真登（経済2年）、三塁手：井森友希（経済4年）、外野手：南将太（経済3年）と4選手が獲得しました。

なお、10月27日にマスカットスタジアムで行われた、中国・四国地区代表決定戦では広島六大学リーグ代表の近畿大学工学部には4-0と勝ちましたが、四国六大学リーグ代表の松山大学に1-4と惜しくも敗れ、昨年に続く明治神宮大会出場はなりませんでした。応援いただいた教職員の皆様、学友会の皆さんに心から感謝いたします。

硬式野球部はすでに春のリーグ戦優勝、全日本大学選手権出場を目指して、厳しいトレーニングを開始しています。

今後も応援よろしくお願いします。

硬式野球部長
国際経済学科 准教授 足立 浩一

第79回 全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部)出場



本学学友会卓球部女子ダブルの青木穂波さん(生物2年)と佐藤花恵さん(栄養2年)のペアが、平成24年8月27～30日(月～木)に鳥取県民体育館で開催された、第63回中国学生卓球選手権秋季大会において健闘し、10月25日(木)から横浜市文化体育館で開催された、第79回全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部・女子ダブルス)に出場いたしました。同ペアは初の全国大会出場となりましたが、東北福祉大学のペアに負けてしまい、惜しくも初戦突破はなりませんでした。応援してくださいました、教職員の方々、ならびに学友会の方々には心から感謝いたします。

全国大会で好成績をあげることを目標に、これから卓球部全員が精進してまいりますので、引き続き応援をよろしくお願ひいたします。

卓球部顧問 情報工学科 教授 千葉 利晃

学友会短信

【サッカーデ部分】

- 4月22日～11月11日 2012年度中国サッカーリーグ 4位
- 8月26日 2012年度全広島サッカー選手権決勝大会優勝により天皇杯全日本サッカー選手権大会出場決定
- 8月28日 福山市長表敬訪問(天皇杯出場報告)
- 9月2日 第92回天皇杯全日本サッカー選手権大会出場(1回戦 対FC今治)
- 9月29日～10月3日 第67回国民体育大会(ぎふ清流国体)サッカー競技成年男子広島県代表選手 半田翔一(経済4年)出場

【硬式野球部】

- 9月1日～10月14日 2012年度中国六大学秋季リーグ戦優勝(勝点5) 最高殊勲選手賞:山本翔大郎(経済2年), 首位打者賞:木村真登(経済2年), ベストナイン賞 一塁手:成廣築(経済4年), 二塁手:木村真登(経済2年), 三塁手:岸森友希(経済4年), 外野手:南将太(経済3年)
- 10月27日 (明治神宮野球大会)中国・四国地区代表決定戦出場(福山大学, 近畿大学工学部, 松山大学)

【陸上競技部】

- 7月6日～8日 秩父宮賜杯第65回西日本学生陸上競技対校選手権大会出場
- 9月9日～12日 天皇賜杯第81回日本学生陸上競技対校選手権大会出場 廣藤耕一(経済3年) 10000mw決勝23位
- 10月26日～28日 第35回中国四国学生陸上競技選手権大会出場

【剣道部】

- 8月26日 第59回中四国学生剣道優勝大会出場
- 11月3日 第5回天野杯剣道選手権大会出場 男子個人戦3位小早川佑貴(経済1年), 女子個人戦3位谷口桃子(経済2年)
- 11月24日 第6回広島県学生剣道選手権大会 男子個人戦ベスト16坂本惣二郎(経済1年)により全日本東西対抗剣道大会予選出場権獲得

【卓球部】

- 8月27日～30日 第63回中国学生卓球選手権秋季大会 男子団体3部2位, 女子ダブルス青木穂波(生物2年)・佐藤花恵(栄養2年)ベスト8により全日本大学総合卓球選手権大会出場権獲得
- 10月12日～13日 第34回中国学生卓球連盟会長杯争奪卓球大会出場
- 10月25日～28日 第79回全日本大学総合卓球選手権大会出場 女子ダブルス青木穂波(生物2年)・佐藤花恵(栄養2年)

【柔道部】

- 7月1日 第18回広島県柔道体重別選手権大会(兼第67回国民体育大会広島県予選会)出場

- 8月5日 第17回天野杯女子柔道大会 島田知枝(経済3年)2位

- 8月24日～26日 平成24年度中国四国学生柔道体重別選手権大会出場

【弓道部】

- 8月14日～16日 第60回全日本学生弓道選手権大会 広島県予選通過者 藤原悠也(理17年), 石川円香(理17年)出場

【バスケットボール部】

- 4月14日～7月29日 2012年度広島県バスケットボール交流戦春季リーグ戦 2位

- 9月5日～7日 summer basketball tournament 2012出場

- 9月8日～11月25日 2012年度広島県バスケットボール交流戦秋季リーグ戦出場

【ボート部】

- 9月22日 第56回中国学生ボート選手権大会出場

- 10月1日～8日 第67回国民体育大会(ぎふ清流国体)ボート競技成年女子広島県支援選手 大江羅夢(経済1年)出場

【バドミントン部】

- 6月24日～29日 第56回中・四国学生バドミントン選手権大会出場

【実践空手道部】

- 7月22日 2012ルーキーズカップ出場

- 11月18日 第18回全日本大学オープン選手権大会出場

【ゴルフ部】

- 7月11日 第36回中四国学生ゴルフ選手権大会出場

- 11月26日～29日 第33回中四国学生ゴルフ新人戦出場

【軟式野球部】

- 11月26日～30日 平成24年度西日本地区学生軟式野球秋季Ⅲ部リーグ戦出場

【硬式庭球部】

- 8月19日～9月30日 平成24年度全日本大学対抗テニス王座決定試合 中国四国地区大会5部校(男子団体戦)準優勝 入替戦勝利により4部校昇格

- 11月17日～25日 平成24年度学年別チャレンジトーナメント大会1年・2年の部出場

【YRC(ボランティア)部】

- 7月14日 第10回わいわいフェスタまつなが(社福)芙蓉の家イベント参加

- 8月18日 BIG SUMMER STORY～キミとつくる夏～福山市松永生涯学習センターイベント参加

- 9月2日 松永ロータリークラブさくら公園清掃活動参加

- 9月16日 第19回ゲタリンピック2012イベント参加

- 9月22日～23日 Riverside Groove'12 野外チャリティーライブ・フェス!in芦田川(ライブ, 清掃, 環境学習)参加

- 10月6日 ふくやまアート・ウォーク2012イベント参加

- 11月11日 ふれ愛ランドまつり2012参加

- 定期清掃活動クリーンウォーキングJR松永駅・JR福山駅・芦田川(月3回)

【書道同好会】

- 8月13日 第8回ふくやま書道美術館所蔵品臨書展出品

【ダンス部チアダンスチーム】

- 9月16日 第19回ゲタリンピック2012イベント参加

- 11月4日 商工フェア2012 イベント参加

【三歳太鼓を打つ会】

- 10月27日 じばさんフェア2012演奏出演

- 11月2日 福山市立東村小学校太鼓教室和太鼓演奏, 指導

【三歳祭運営委員会】

- 10月8日 三歳祭PR活動 福山宮通り商店街にて(管弦楽団, 吹奏楽部, 三歳太鼓を打つ会, ダンス部(チアダンスチーム, ブレイクダンスチーム), Good Jum Factory参加)

- 10月19日～21日 第38回三歳祭「One～1つに～」

【学友会執行部】

- 7月2日～9日 七夕まつり学内飾付け

- 8月26日 街頭献血協力(フジグラン尾道)

- 8月28日～29日 海フェスタ共催イベント「THE SEAIN～真夏の夜の物語～」執行部が企画運営を行った福山・尾道市内中学・高校・大学生によるダンス・音楽合同演舞・演奏

- 9月16日 第19回ゲタリンピック2012イベント参加

- 10月19日 秋季学長杯争奪競技大会(三歳祭) バスケットボール3on3の部, ソフトボールの部

- 10月24日 卓球部壮行式(三歳太鼓を打つ会 演奏)

- 11月22日 学内・秋季献血活動

- 学友会サークル新規承認について ボードゲーム同好会(平成24年7月18日付承認, 顧問: 心理学科 准教授 山崎理央)

(学務部 学生課)

平成24年度文部科学省 「私立大学教育研究活性化設備整備事業」に採択

平成24年度文部科学省「私立大学教育研究活性化設備整備事業」に「仲間が集い、主体的学びを育む、アクティブ・キャンパスの形成」の取り組みで申請していたものが採択されました。

この事業の狙いは、本学が進めている福山大学教育システムにおいて「主体的な学修」、「学習意欲の涵養」及び「全人教育の充実」を実現するためのアクティブ・ラーニング環境の充実を図ることです。

この事業により、平成25年1月25日に学生・教員・地域の皆様、すべての人々・仲間が集い、学び、楽しむために、大学会館が新しくなりました。



2013年1月、大学会館3階にICT教室CLAFTが誕生しました。教室名「CLAFT」は、大学会館リニューアルプロジェクトのテーマ『仲間が集い、主体的な学びを育む』を意味するように英語を並べた「Classroom for Learning Actively with Friends Together」のそれぞれの単語の頭文字をとったものです。福山大学における学びの拠点として、仲間たちと過ごす時間、知的興奮、たくさんの笑顔が生まれる場所になってほしい、そんな思いがこもっています。

平成24年度文部科学省 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業

学生の皆さんのが、将来の自分を社会の中でイメージし、自らをそのイメージに近づけていくことをサポートするために、『自分未来創造室』を開設しました。

自分未来創造室開設の背景には、産業界のニーズに対応した人材を育成したいと願う文部科学省の意向があるため、自分未来創造室の役割はこの意向に沿ったものとなります。すなわち、学生の皆さんを産業界のニーズに対応させていくことが主目的なのです。そこで、産業界のニーズを決め付けることは避け、学生の皆さん自らに産業界のニーズを見つけてもらうことを活動の起点に置きました。自分未来創造室は学生の皆さんのが産業界と接触する機会を手助けします。インターンシップやそれに類する活動を通じて、学生の皆さんに産業界(会社・工場・企業人など)とできるだけコンタクトしてもらうように企画運営していきます。



しかし、自分未来創造室は活動の手助けをして活動の環境は整えますが、活動する主役は学生の皆さん自身です。産業界と接触する様々な活動を通じて、ニーズを把握しそれに対応することに努め、自らを社会に役立つ人材に磨き上げていくことを切望します。また、この活動は、産業界と学生の皆さんとの間のミスマッチを防ぐ役目も果たすことができると考えています。良いところに就職するだけでなく、グッドマッチングによりこの先ずっと良い就業を続け、自分の未来を切り開いてもらいたいと考えていることからも、『自分未来創造室』と名付けました。

後援会情報 福山大学後援会役員会(理事会)開催される!

三歳祭(大学祭)期間中の10月20日(土)の11時から福山大学後援会役員会(理事会)が19号館1921教室で開催されました。

佐藤後援会長、松田学長の挨拶に続いて会長・副会長・監事・理事が自己紹介を行い、その後、8月中旬から9月上旬に全国14会場で開催された後援会地区別総会の報告がありました。

総務部 庶務課



挨拶する佐藤後援会長



役員会の様子

編集後記

「学報」は年に4回発行している大学の広報誌です。入学式や卒業式などの公式行事、毎回「みなさんに読んでいただきたいにはどうすればよいだろう?」と編集委員が悩みながら作成しています。学報に関してこれまで教員、学生、保護者の方々から、「真面目すぎる」というご意見が数多くありました。そこで今回から写真を増やし、文章の段組なども工夫をしてみました。「おっ、変わったな!」という印象を持っていただけましたか? 内容もますます充実していくよう編集委員一同奮闘していますので、是非ご一読ください。

発行 福山大学

編集 福山大学広報委員会

〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三歳

TEL(084)936-2111 FAX(084)936-2213